



季節が移ろい、
木枯らしが吹き抜け
落ち葉が舞い、
地上をかさこそ踊りだし
秋の深まりを感じていたら
一転して真っ白な雪景色
子ども達は大はしゃぎで、
ベタベタの雪合戦。

街はクリスマスの飾りに彩られ
保育室からはふたばっ子の
元氣なクリスマスソングが。
晩秋から初冬へ
駆け足で季節が変わる
もう一年が過ぎ去ってしまう。



今月のねらい

・冬の自然現象に興味を持ちながら、戸外で元気に遊びたいと思います。また、クリスマスや年末などの行事に興味を持ち、心豊かに過ごしていけるように配慮して行きます。

行事予定表

1	木	子育てサロン
2	水	交通安全教室(2歳児以上)
8	木	カレーの日
13	火	冬遊び交流会・ピヨピヨひろば
15	木	リトミック(2歳児以上)
16	金	避難訓練
20	火	クリスマス会
21	水	おべんとうデー
22	木	誕生会
28	水	保育納めの会

今月の予定の中から

●交通安全教室(2日)

・今月は、2・3歳児が4・5歳児とペアになり、「一時停止」を学びながらクリスマスツリーのパーツを飾ります。園外保育の際にも一時停止の表示を意識しながら出掛けます。

●カレーの日(8日)

・4・5歳児は、エプロン・三角巾の用意が自分で出来る様に見守りをお願いします。だいちぐみのフルーチェ作りもとても上手になりました。

●冬遊び交流会(13日)

・5歳児が牛久二小の一年生と交流を楽しみながら、就学への期待を高めて行きます。今月から就学を控え、ぞうグループでの活動の際は、上靴の使用と管理を始めます。その他にも自分の事は自分で出来る様に家庭でも気に掛けてください。

●リトミック(15日)

・音やリズムを身体で感じながら身体表現を楽しんでいます。中島先生には年齢にあった指導をして頂いています。

●クリスマス会(20日)

・今年も、クリスマスソングを耳にする時期となりました。5歳児はキャンドルサービスの練習が始まりますが、今年のクリスマス会も、子ども達の心に沢山の夢が膨らむきっかけとなりますように！

●誕生会(22日)

・誕生会の際も、月を追うごとに集中時間も延び、誕生者を祝う気持ちが増しているように感じます。年に1回の特別な日となりますように。

★お知らせ☆お願い

★年末・年始は12月29日～1月3日まで休園となります。年末年始にお休みの予定のある方は担任までお知らせください。



★お迎えの方が変更の場合は必ず園にご連絡ください。また、お迎えカードの着用も引き続き宜しくお願い致します。

★お餅つき(1月17日)のお手伝いをして下さる方を大募集しています。つき手の男の方も大歓迎です！担任または事務室までお声掛けください。

危機回避の能力を育てる

ある幼稚園を訪問した際、園庭を子ども達が走ってきました。すると、若い先生が、突然、両手を突き出し、「走ってはダメ！」と、制止しました。「先生、今、何て言ったの？」と言うと、「アツ」という顔をして下を向きました。「最近、保護者から、強いクレームがあったのでしょう？でも、園庭を走らないで、どこを走ればいいの。転んでヒザを擦りむいたくらいでも、激怒するおかしな親はどこにでもいるよ。辛かったでしょうけど、子ども達に思い切り走らせてあげようよ」と言うと、涙を浮かべてうなずきました。走って転んだくらいだから、たいしたケガではないと思います。猛烈なクレームが先生を委縮させます。▼ある幼稚園の園長が「私のところでは、子どものケガは一切ない」と胸を張りました。その後、その園を訪ねたところ、ブランコが取り除かれ、遊具がほとんどありませんでした。子ども達は、先生の笛に従って、整然と行動していました。これではケガのしようがありません。▼子どもの周囲を見廻すと、危険な個所があります。しかし、注意を促し、危険を回避する力を育てれば回避できる危険と、子ども達では回避できない危険があります。回避できない危険や、大きな事故につながるような危険は、直ちに取り除かなければなりません。例えばブランコでよくケガがあります。認識力が育

ってないと、動いているブランコに近づいて衝突します。入園当初、ブランコを動かして、ブランコは、向こうに行くと、直ぐにこちらに戻ってくることを、直接体験させます。人が乗っているブランコの前後には、近づいてはいけないこと、危険を予測し、回避する能力を身に付けるようにします。子どもは良くころびます。ころんで、ころんで、ころばないで走れるようになります。ころんだ時にも、パッと手で体を支え、顔を打たないような反射神経も身に付けていきます。幼児期の子どものその行動を良く理解し、何が危険か、どう危険を予測し、回避するか深く見通すと、大きな危険は回避できます。▼40年近く前に、初めて子ども達を筑波登山に連れて行きました。当時、幼稚園児が筑波登山することはなかったので、茶店の人に驚ろかれました。しかし、幼稚園児にとって筑波登山は簡単なので、山に登るのは、体重を上に移動させることなので、体重の軽い幼児にはたやすいことなのです。小学生より楽々と登れます。(但し、体力がついてない年中少では無理です。)転んでも、登りでは手がパツと出ますから危険ではないのです。しかし、注意するのは、下りです。ころんだ際に手を付く間隔が遠くなります。歩幅も広くなり歩きづらくなります。視線も遠くなり、注意力もゆるみます。特に、ゴール地点が下りだと気が緩みます。今まで、登りでケガをしたことは一度もありません。ケガは全て下りのゴール地点です。下りのゴール地点では教師を配置し、声をかけ続けさせます。子どものことを知れば、危険はわかります。子ども達を注意深く見守り、自由に、伸び伸びと活動させてあげたいと願っています。

理事長 浅田 精利

